

観客フェア3年ぶり

〈北海道〉済生会ピレツジ

新型コロナウイルスで休止していた済生会フェアが3年ぶりに参加者を集めて開

催された。北海道済生会が6月20〜26日、小樽市の大型商業施設「ウイン



グベイ小樽」を会場に、ウエルネスフェアを実施。期間中は約2000人が

来場、買い物を楽しみながら健康情報に接するさまざまなイベントが行なわれた。

25日はスペシャルデイと題し、講演会や体験会を実施。ウイングベイ小樽の館内に設けられた約1キロのウォーキングコ

ースでは、小樽病院の理学療法士が歩き方をアドバイスした。また、「ムーブメントフラクティ

ス」と呼ばれる最先端の脳・運動活性化理論を用いた介護予防の体験会なども行なわれた。

講演会では済生会の炭谷茂理事長が「済生会は社会的に弱い立場の人々を地域社会が受け入れる

「ソーシャルインクルージョン」という理念に基づいたまちづくりに取り組んでいる。地域の皆さんと一緒にやってこれを進めていきたい」と訴えた。

元北海道テレビアナウンサーで野菜ソムリエの資格を持つ佐藤麻美さん(株)明治の管理栄養士による、健康な体づくりに必要な食事や運動についての解説や、26日は企業やNPOと連携して障害のある子どもたちの遊びの工夫を紹介するコーナーも開設した。

関東ブロック66人参加 災害対策連絡会議

災害リスクの情報共有や各施設が抱える防災の課題について意見交換を行なう令和4年度関東ブロック災害対策連絡会議が、7月6日、済生会本部で開かれ、20病院と20施設から事務部長や災害対策責任者など66人が出席した。

始めに竹田玄一事業推進課長と奥野史寛危機管理専門員が、昨年12月の災害・安全管理対策委員会の審議概要を報告。済生会の災害救援活動規則・必携が改正され、大規模災害発生時には本部に設置する災害警戒準備室と済生会の災害基幹病院等が連携し、情報を共有することを確認した。

また、被災地に派遣される福祉専門チーム(DCAT)の派遣調整施設が被災した場合に備え、DCAT準基幹施設が設置されることや、自治体等からの支援要請に応えるため医療と福祉の両面で支援する「済生会救護班」の設置に向け、済生会救護班の体制検討ワーキンググループが立ち上がったことが報告された。その後、施設から寄せられた質問について出席者が意見交換を行なった。

この連絡会議は6月24日に中四国ブロック(岡山県済生会総合病院)、6月30日に九州ブロック(熊本病院)、7月4日に東北・北海道ブロック、7月8日に近畿ブロック(中津病院)で開かれた。7月28日には北信越ブロック(福井県済生会病院)で開催する。

(事業推進課)

新任施設長の抱負

〈福島〉 山木屋診療所



渡辺 浩志

昭和40年生まれ。福島県出身。平成2年福島県立医科大学医学部卒。6年同大学院修了。8年米国サウスカロライナ医科大学博士研究員。23年福島県立医科大学消化器・リウマチ膠原病内科学講座教授。令和4年7月川俣病院副院長兼山木屋診療所所長に就任。



久保 洋行

昭和42年生まれ。東京都出身。平成7年北里大学卒、北里大学病院入職。18年湘野総合病院健診部門入職、23年訪問診療部門兼任。令和4年6月湘南苑院長に就任。

「当施設は平成2年6月に平塚病院(現湘南平塚病院)に入所54床で併設されました。29年には平塚病院が新築移転したため単独型施設化。令和2年5月に訪問リハビリ定員を16名、同10月には通所リハビリを47名に拡大しました。利用者一人ひとりのために最善を尽くすことに誇りを持ち、地域の人々が安心して快適な暮らしができるよう、信頼される医療と福祉を提供します」

静岡医療福祉センター 成



池田 和久

昭和34年生まれ。静岡

「当施設は、障害者総合支援法に基づき日中は『生活介護』、夜間は『施設入所支援』を行なう障害者支援施設です。当施設に隣接する静岡済生会総合病院等との連携をより一層進め、利用者のサービス向上に努め、利用者の方々の笑顔も職員も元気で笑顔のあふれる施設となるよう取り組んでまいります」

今年度は8カ所で

広報の充実・強化の一環として、本会を地域へ向けてアピールするため、済生会本部は2013年から支部施設と協働して済生会フェアを実施。主にマスコミ等メディアへ向けた広報PR関係の費用

済生会創立110周年 記念出版3冊出そろった

済生会創立110周年記念出版のうち、①法人全体と各支部・施設の記録を収録した本冊と②10年間のできごとを写真で見ると別冊が刊行された。先に出版された③絵本を含め3冊が完成した。本冊は「新たな世紀へ―社会福祉法人済生会101〜110年」。全

体編・法人活動編(136頁)と支部・施設編(430頁)の2部構成で、B5判上製ケース入り。別冊(写真集)はA4判オールカラー表紙込み52頁。ともに初版は2千部発行。①は重版する計画はないが、②の写真集と③の絵本は施設からの求めに応じて重版す

る。すでに②は第2刷5千部を、③は第2、3刷で計1万部を発行している。ともに無料。入用の場合は広報室へ。(広報室)

HOCHIKI

●写真は、ロンドン/セント・パンクラス駅

明日の世界に安全と安心をお届けします

ユーロスターの始発駅として知られる、ロンドンのセントパンクラス駅。ここでも、当社の「火災感知器」が皆様を見守っています。「製品を通して世界に安全と安心をお届けする。」それが、私たちの使命です。

ホーチキ株式会社

「あした」は、ナニイロ?

鹿島のしごと。それは「あした」をつくること。人と自然と向き合って、よりよい毎日をつないでいくこと。暮らしを描く、ものづくり。無限の創造力で、彩り豊かな未来へ。

100年をつくる会社
in 鹿島

学会 3年ぶり会場開催

2月横浜「わたしたち済生会の変革」

第75回済生会学会・令和4年度済生会総会が令和5年2月11・12日、横浜市東部病院の三角隆彦病院長を会長に横浜市で開かれる。神奈川県済生会としては平成28年度の第69回以来、7年ぶり4回目。横浜市東部病院は平成19年の開院後、初めての担当となる。



新型コロナウイルス感染症拡大のため、第73回学会・令和3年度総会（熊本市）が中止、第74回学会（神戸市）は誌上開催となり、令和4年度総会も中止となった。今回はコロナ禍で

新型コロナウイルス対応が最優先課題だが、脱炭素化、自然災害、DXなどの社会課題に、済生会は歴史、伝統を大切にしつつ、柔軟な発想で課題に取り組み、新たな道を自ら切り拓いていくという思いが込められている。

特別講演は俳優で気象予報士の石原良純氏と済生会の評議員で宇宙飛行士の向井千秋氏の2題。特別企画として、「新型コロナウイルス感染症と済生会」と題し、神奈川県医療危機対策統括官で藤沢市民病院副院長の阿南英明氏と済生会の松原理事が対談する。その他、シンポジウムやポスター発表、ランチョンセミナーなど従来どおり

申し込み締切 9月13日
参加締切 12月9日

時間	行事	会場(パシフィコ横浜ノース)	懇親会
10:30~13:00	経営管理会議		
14:10~15:00	四役連絡会議	4F G403+G404	
四役会議			
15:30~17:30	病院長会議	4F G401+G402	ヨコハマグランドインターコンチネンタルホテル3F「インターコンチネンタルホール」
15:30~17:30	事務(部)長会議	3F G303	横浜ロイヤルパークホテル3F「鳳翔」
15:30~17:30	看護部長会議	3F G301+G302	
15:30~18:00	福祉施設長会議(含分科会)	3F G304 分科会 G412+G413、G414+G415、G416+G417、G418+G419	横浜ロイヤルパークホテル3F「鳳翔」
研修会・セミナー			
10:00~12:30	臨床研修管理担当者研修会	3F G301+G302	
13:30~17:30	初期研修医のための合同セミナー	1F G5	

時間	行事	会場(パシフィコ横浜ノース)
8:00~12:00	受付	
8:30~8:40	開会式	1F G5+G6
8:50~9:50	基調講演	
8:40~11:10	一般演題(口演発表)	4F G403+G404、G401、G402、G414+G415、G416+G417、G418+G419、3F G301+G302、G303、G304、G314+G315、G316+G317、G318+G319
9:15~10:35	一般演題(ポスター発表)	1F G7+G8
10:00~11:30	シンポジウム	1F G5+G6
10:00~11:15	特別企画	4F G403+G404
11:45~12:45	ランチョンセミナー	※事前登録制
13:00~14:00	特別講演①	4F G5+G6
14:00~15:00	特別講演②	(中継会場: G403+G404、G301+G302)
15:00~15:30	総会会場へ移動	
15:30~16:30	総会	1F G1~G4

学会総会ホームページ URL <https://convention.jtbcom.co.jp/75saiseikai/>
 《学会事務局》 済生会横浜市東部病院
 〒230-0012 横浜市鶴見区下末吉3-6-1 Tel: 045-576-3000 Fax: 045-576-3525
 E-mail: info75@obu.saiseikai.or.jp
 《演題登録事務局》
 株式会社 JTB コミュニケーションデザイン 事業共創部 コンベンション第二事業局内
 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル8階 Fax: 06-4964-8804
 E-mail: 75saiseikai@jtbcom.co.jp
 《参加登録事務局》
 「第75回済生会学会 令和4年度済生会総会 参加登録事務局」(株式会社 JTB 横浜支店内)
 〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴屋町3-29-1 第6安田ビル6階
 Tel: 045-316-4602 Fax: 045-316-5701 E-mail: jtb_convention@jtb.com
 [営業時間] 午前9時30分~午後5時30分(土・日・祝日休業)
 《臨床研修管理担当者研修・済生会初期臨床研修医のための合同セミナーに関するお問い合わせ先》
 済生会本部事務局 事業部 事業推進課
 〒108-0073 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビル21階 Tel: 03-3454-3071
 E-mail: t.suzuki@saiseikai.or.jp

R3決算 過去最高黒字569億円

コロナ補助金が寄与、「真水」は赤字

済生会の令和3年度決算は史上最高の569億円の黒字を計上した。新型コロナウイルス補助金によるもので、補助金を除いた「真水」は大幅な赤字となった。6月29日、本部で開かれた評議員会に報告され、炭谷茂理事長は「補助金ではあるが、本会が取った感染症対策の適切なサービスの対価と位置付けている。ただ、今期は厳しい決算になることが予想され、気を引き締めて経営に当たりたい」と述べた。

事業費などのサービス活動費用は691.4億円。この結果、サービス活動増減差額は620億円の赤字となった。これにサービス活動外や特別増減差額を加えた最終的な収支状況を示す「当期活動増減差額」は569億円の黒字だが、新型コロナウイルス補助金を除くと173億円の赤字となる。81病院のうち29病院は補助金がなくても黒字を計上したが、6病院はコロナ補助金を入れても赤字だった。

令和2年度比では、医療事業収益が8.6%アップの681.6億円。新型コロナウイルスの補助金収入が主原因だが、これは新型コロナウイルス患者の積極的受診が戻りつつあることが一因だ。

「今期は厳しくなる」国の補助金交付で新型コロナウイルス患者を受け入れた病院はこの2年間、黒字を計上している。済生会も同様だが、新型コロナウイルスの感染拡大が始まった令

THE NEWS SAISEI

発行所 社会福祉法人 済生会
 東京都港区三田1-4-28 三田国際ビルディング21F 〒108-0073
 電話 03-3454-3311
 FAX 03-3454-5576
 編集兼発行人 炭谷 茂

<https://www.saiseikai.or.jp/>

高松宮記念基金にご協力ください

令和4年1月~6月分実績

◎本会会員加入状況	40,133人	81.4%
	45,010口	9,005万円
◎外部会員加入状況		
◎一時寄付状況	11件	41万円
	(内、自販機関係)	23万円
◎募金箱		27万円

け入れによる事業収入とみなすことができる。費用は医薬品費や診療材料費といった事業費が4.5%増の2050億円。これはコロナが落ち着いてきたことで延期していた手術の実施や健診受診が戻りつつあることが一因だ。

額は102億円の赤字となった。その中で設備更新の延期や賞与の減額などで経営への影響を最小限に食い止める努力を行なった。一方で、国・自治体の要請に基づき一般病床を削減して感染症病床を確保。また、自院のローテーションを削って東京・大阪・沖縄などへ医師・看護師等を派遣したほか、コロナ患者の受け入れだけなく、ワクチンの職域接種にも対応した。炭谷理事長はこれまでの会議等で「黒字は各病院が医療機器や設備の拡充など新型コロナウイルスへの体制を積極的に整え、さらには風評被害による誹謗中傷や疲労に耐えながらも

奮闘した職員の努力の結果だ」との認識を示している。評議員からの「黒字は補助金によるものだが、次年度以降は同様に望めない。どう取り組むのか」との質問に対し、「感染が収まっても患者数は元には戻らない可能性がある。補助金慣れせずその状況を乗り越えていかなければならぬ」と答えた。

評議員会の議案は6件で、全て原案通り可決。同決算を含む報告事項は7件だった。(経理課・経営管理課)

審議に時間を要する案件が増大しており、審議時間が十分に確保できない事態も出ている。今後は、法人経営に大きな影響を与える重要な案件が増えることが想定されるため、委員会とは異なる組織で検討することが決まった。

参与は施設運営委員とは兼務しないが、同委員としての経験があり、長年の施設経営の実績と深い見識を持つ人の中から5~7人を理事長が委嘱。特に重要な案件は参与会議で審議、同委員会に意見を述べる。同委員会は「この意見を尊重し審議・決定する。」(経営管理課)

「参与会議」を新設 重要案件で施設委に意見

理事長の諮問を受け済生会施設の運営にかかわる事項を審議する施設運営委員会に、新たに「参与会議」が設置された。病院の統廃合や新設などに重要な案件を事前に

「参与会議」を新設 重要案件で施設委に意見

審議し、同委員会に対し意見を述べる。6月21日臨時に同委員会が開かれ、規則の改正案を協議、承認された。

近年、同委員会では借入や施設整備計画など、

- 寄贈
- 群馬県済生会 50万円 (熊本病院へ)
 - 福田文了殿 200万円 (あずま荘へ)
 - 滋賀県済生会 200万円 (滋賀県病院へ)
 - 京都府済生会 200万円 (株)セレマ殿
 - 中小路隆殿 100万円 (京都済生会病院へ)
 - 熊本県済生会
- 人事
- 福島県済生会 山木屋診療所所長 新任 渡辺浩志 7・1 退任 山口鶴子 6・30
 - 茨城県済生会 副会長 萩原 勇 6・1 委嘱 秋原 勇 6・1 解嘱 中山一生 1・17
 - 神奈川県済生会 副会長 房村正博 6・8
 - 介護老人保健施設湘南苑 苑長 新任 渡部洋行 6・14 退任 野崎宏幸 5・31
 - 静岡県済生会 静岡医療福祉センター 人部施設長 新任 池田和久 6・14 退任 渡瀬 浩 3・31
 - 鹿児島県済生会 副会長 鹿兒島 啓 3・31